

掛川市「考古の日」記念
出 土 文 化 財 展

と き：平成3年5月31日(金)～6月2日(日)
ところ：掛川市生涯学習センターギャラリー1階

1991

掛川市教育委員会

六ノ坪遺跡（レイク・ヒル・タウン遺跡）

1. 調査地 大池字六ノ坪 2,503-2外

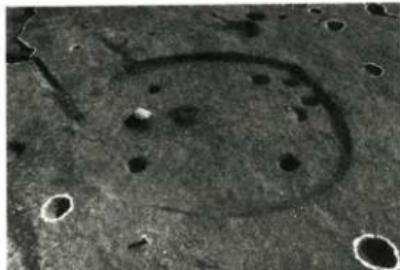
2. 調査の原因 宅地造成工事

3. 調査の面積 20, 550 m²

4. 調査の期間 平成2年4月～平成3年3月

5. 調査の内容

調査では、弥生時代から平安時代までの竪穴住居跡90軒、奈良時代から平安時代までの掘立柱建物34棟、弥生時代から古墳時代の方形周溝墓群、古墳3基などが発見されました。出土した遺物には、弥生時代から平安時代までの土器、奈良時代の瓦陶器、古墳からの刀・鐵などがあります。



弥生時代後期の竪穴住居跡



弥生時代後期の方形周溝墓跡



奈良～平安時代の掘立柱建物跡

中原・溝ノ口遺跡

1. 調査地点 高田字溝ノ口原 882-2外

2. 調査の原因 研究農場建設造成

3. 調査の面積 6,636m²

4. 調査の期間 平成2年4月～10月、平成3年2月～3月

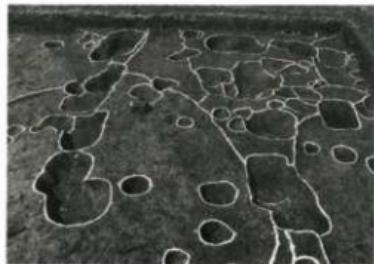
5. 調査の内容 調査は限られた範囲の調査でしたが、1,700～1,600年前の弥生時代後期から古墳時代前期に属する住居跡が全部で145軒確認されました。これらの住居跡は、3地区に集中する様子がみられ、ここに3つのムラが存在したことがわかりました。

当時の建物は住居跡の他、倉庫跡もありムラの様子を復元する大きな発見となりました。

ここでの調査では、鎌倉時代の土坑30基、近世の道（古道）も発見されました。



第8調査区全体写真



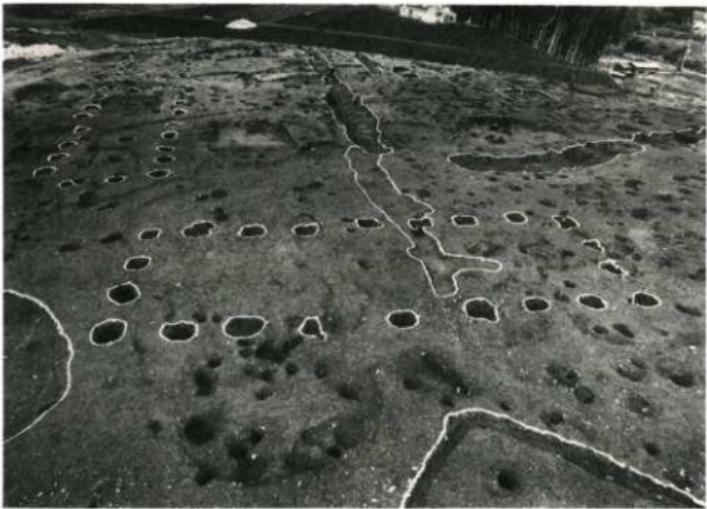
古墳時代の「柱立柱」建物跡



鎌倉時代のお墓



六ノ坪遺跡全景



奈良～平安時代の掘立柱建物跡・整穴住居跡・溝跡

いえしろうちこし

家代打越古墳

1. 調査地 家代字打越
 2. 調査の原因 土地区画整理
 3. 調査の面積 200 m²
 4. 調査の期間 平成2年10月～11月
 5. 調査の内容
- 調査の結果、古墳と考えられる遺構は発見されませんでした。山の頂上部から中腹にかけてのいたるところから江戸時代から現代までの陶器・かわらけ・古錢が出土しました。特に頂上部のほこらの下と、ひのきの大木付近からは、30個程のかわらけが発見されました。



家代打越古墳全景



頂上部かわらけ出土状況

おやまといら

小山平II遺跡

1. 調査地点 下垂木字小山平 2,709外
 2. 調査の原因 宅地造成
 3. 調査の面積 5,300 m²
 4. 調査の期間 平成2年11月～平成3年2月
 5. 調査の内容
- 調査では、主に弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡15軒・掘立柱建物跡4軒・土坑4基などが発見されました。その他の時代では、井戸状遺構13基・溝状遺構9状・柱穴状遺構なども発見されました。

遺物には、土器・石器などがあります。

吉岡原遺跡

1. 調査地点 吉岡原字大塚腰 1,516-3
2. 調査の原因 県道掛川山梨線拡幅工事
3. 調査の面積 321m²
4. 調査の期間 平成2年11月
5. 調査の内容

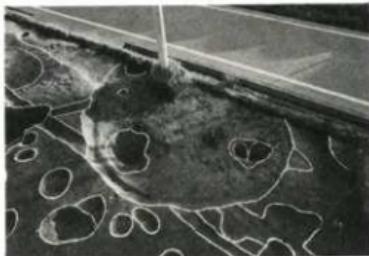
検出した遺構は、弥生時代後期（1,700年前）～古墳時代前期（1,600年前）の住居跡3軒・小穴57基、古墳時代中期（1,500年前）以降の古墳周溝1、近世以降の道3条等です。

遺物には、住居跡・古墳周溝から出土した弥生時代後期～古墳時代中期に属する土器（壺・甕・鉢・高杯）があります。

のことと過去の調査（昭和61年度）とを考え合わせると、吉岡原遺跡は標高55m前後の段丘縁辺部を東の限界として、西側内陸部に広がることが明かとなりました。



調査区全体写真



弥生時代後期の住居跡



弥生時代後期の住居跡（部分）

土橋横穴群

1. 調査地

細谷字土橋

2. 調査の原因

県立総合教育センター（仮称）建設

3. 調査の面積

1,100m²

4. 調査の期間

平成2年11月～平成3年1月

5. 調査の内容

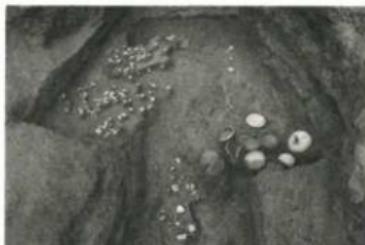
調査では、9基の横穴を発見しました。9基の内のほとんどの横穴の天井部は崩落し、完全に埋没していましたが、遺物はたいへんよく残っていました。

横穴からは、6世紀後半から7世紀はじめの須恵器（壺・高壺・壺等）、土師器（高壺・壺）、鉄製品（大刀・鐵等）、装身具（耳環・ガラス玉・まが玉等）が発見されました。

またこの横穴群に入るための道と考えられる遺構も発見されました。



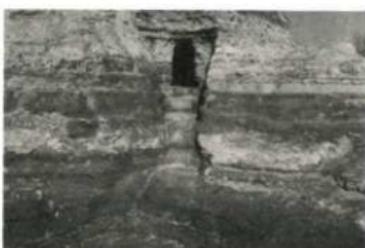
3号墓 遺物出土状況



6号墓遺物出土状況



8号墓 遺物出土状況



5号墓の入口

高田遺跡

1. 調査地点 吉岡字東釜田 1,236-1外
2. 調査の原因 市道高田本通り線拡幅工事
3. 調査の面積 1,200m²
4. 調査の期間 平成2年12月～平成3年1月
5. 調査の内容

今回の調査では、周辺で発見している1,600～1,700年前（弥生時代後期～古墳時代前期）の住居跡は確認できませんでした。このことより高田遺跡の北西域の範囲がわかるかもしれません。

この他調査では、同時代のものと思われる溝を発見した他、近世と思われる古い道が今の市道高田本通り線と平行して発見されました。



調査区全体写真



現在の道と発見された古道



発見された古道

蔵人古墳群

1. 調査地點 下垂木字飛鳥 3,248-1外
2. 調査の原因 宅地造成
3. 調査の面積 3,500m²
4. 調査の期間 平成元年11月～平成2年8月
5. 調査の内容 調査では、古墳時代の古墳5基（竪穴式5基）、横穴1基、土坑墓26基などが発見されました。
遺物は、土師器（碗）、須恵器（坏・高坏・壺他）、鉄製品（刀子・鐵）、石製の紡錘車などがあります。

狐塚遺跡

1. 調査地點 仁藤 20-4外
2. 調査の原因 2,500m²
3. 調査の面積 宅地造成
4. 調査の期間 平成2年9月～11月
5. 調査の内容 調査では、主に弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡2軒・古墳3基と中世から近代にかけての土坑墓36基などが発見されました。
遺物では、弥生時代から古墳時代の土器のほかに縄文時代の石器、古墳時代の鉄製品（大刀・鎌）などが発見されました。

宮脇古墳群

1. 調査地點 宮脇字大多郎 500外
2. 調査の原因 土地区画整理
3. 調査の面積 2,300m²
4. 調査の期間 平成2年12月～平成3年3月
5. 調査の内容 調査では、古墳時代の古墳5基、江戸時代の土坑墓9基・火葬墓2基が発見されました。
古墳から遺物は発見されませんでしたが、土坑墓・火葬墓からは、かわらけと銅錢が発見されました。

鶴本横穴群

1. 調査地点 上張字鶴本 119-1外
2. 調査の原因 東名掛川インターチェンジ建設造成工事
3. 調査の面積 928m²
4. 調査の期間 平成3年2月
5. 調査の内容 調査では、6世紀後半に属する横穴3基を発見しました。墓道は確認していませんが、検出した状況から3基は同じ群に属する横穴と考えられます。
出土した遺物には、壺・坏等の須恵器、鐵・小刀（刀子）があり、いずれも6世紀後半に属するものでした。



1号墓の入口



2号墓の入口



3号墓の入口



全体写真（左から1号墓・2号墓・3号墓）

下に遺跡がありませんか？

工事計画する前に確認してください。

現在、掛川市には930もの遺跡があり、県内一遺跡の多い市だと言われています。こうした遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”とも言われ後世の人たちに伝えていくことが大切です。

このため、『埋蔵文化財保護法』で、遺跡のある場所で土木・建築工事や茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届出をすることが義務づけられています。

工事のため申請をしたが、遺跡の調査で完成が遅れてしまった——ということのないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

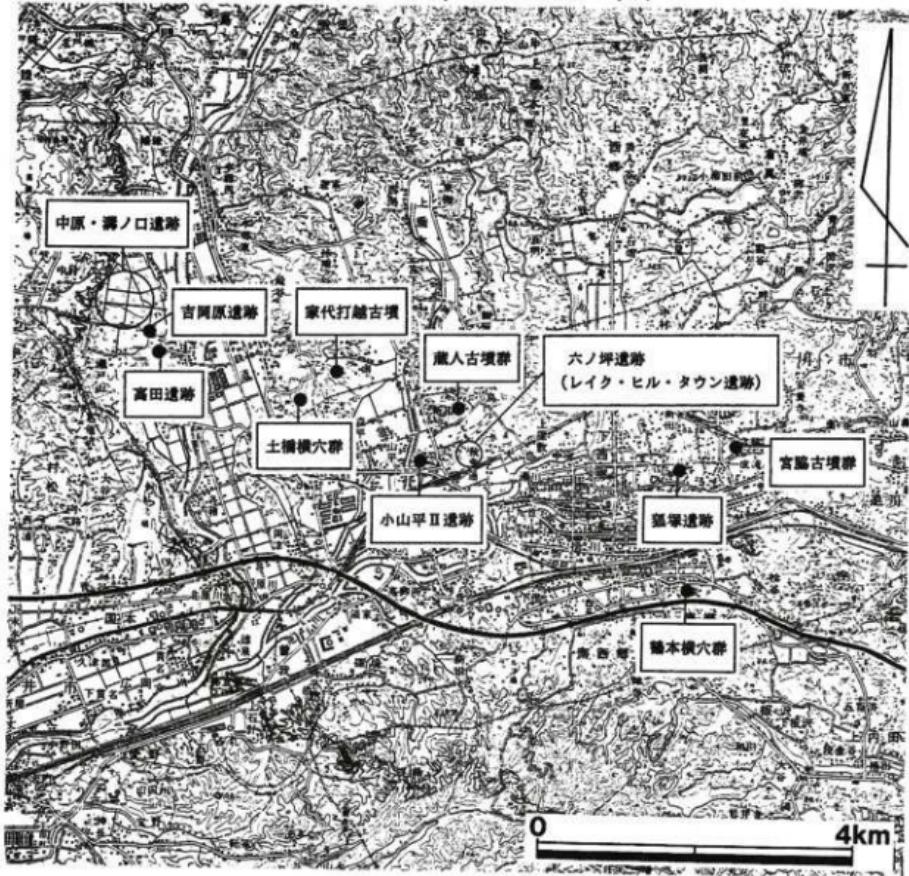
なお、市内にある遺跡の様子を示した『掛川市遺跡地図』があります。次の場所に用意してありますので、計画前にぜひご確認ください。

・掛川市教育委員会 社会教育課文化係 TEL (24) 7773
(24) 6268

・掛川市立図書館

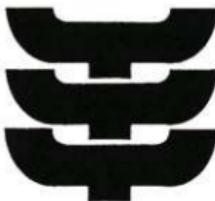
・掛川市役所内：良質地域課（2階）

位 置 図



掛川市「考古の日」

明和9年5月21日（陰曆）現在の長谷字小出ヶ谷地区において、銅鐸一口が発見され掛川藩に届出されました。これが現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と、これらを保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年5月21日を掛川市「考古の日」として設定しました。



文化財愛護シンボルマーク

※パンフレットの無断転写を禁じます。